

若者まちづくりミーティング実施結果

第1回 ※実施計画策定会議と合同開催

日 時：7月18日（月・祝）午後2時から午後4時まで

会 場：生命の海科学館

出席者：14名（高校生4名、大学・大学院生7名、社会人3名）

内 容：

- 公共施設マネジメントの必要性についての説明（ファシリテーター）
- 蒲郡市の公共施設についての現状と課題についての説明（事務局）
- 出席者全員から自己紹介及び感想・意見の発表

〈意 見〉 ※策定会議委員の意見を含む。

- ・ 公共施設の縮減は重要だが、縮減だけでなく魅力を加えることが重要ではないか。
- ・ 高齢化が進む中でニーズがどう変わるかを考えていく必要がある。
- ・ 公共施設の維持にかかる費用が不足することを初めて知った。
- ・ 駐車場が少なく、会議室が空いても活用できない施設がある。
- ・ 空き家を公共施設のように活用することもできる。
- ・ 市民はタックスペイヤーであるとともにタックスイーターでもある。公共施設の維持更新費用をどうするか真剣に考えなければならない。
- ・ いかにコンパクトなまちにするかという視点で考える必要がある。
- ・ 財政状況がかなり逼迫していると感じた。痛みを伴うような対策が必要。



第2回

日 時：8月4日（木）午後1時から午後4時30分まで

会 場：市民会館

出席者：11名（高校生2名、大学・大学院生7名、社会人2名）

内 容：

○ 市内公共施設見学

市内の公共施設をマイクロバスで回り見学しました。「第1印象及（良いところ・悪いところ）」及び「どうすればもっと喜ばれる施設、利用される施設になるか」を見学しながら考え、出席者全員が発表しました。

（見学した施設）

生きがいセンター、老人福祉センター寿楽荘、竹島水族館（外観のみ）、竹島レストハウス（外観のみ）、南部市民センター、博物館、市民会館

〈意 見〉

- ・博物館は「見せる」ためのアピールが少ない。人を呼び込む戦略を。
- ・寿楽荘の存在を初めて知った。利用者は楽しそうに使っていると感じた。
- ・竹島参道の軸を意識し受け止める施設が必要。観光や休憩スペースを設置してはどうか。



○ 「全市利用型施設」についてのワークショップ その1

テーマ：「まちの核となるエリアの魅力創出について考える」

平成 27 年度に実施した市民会議にて「まちの核となるエリア」として挙げられた「蒲郡駅南エリア」及び「竹島周辺エリア」の2つのエリアを対象に魅力を高める方策について検討しました。

第2回ミーティングでは、各エリアの「弱み」と「強み」は何かを考え、意見を出し合い、発表しました。

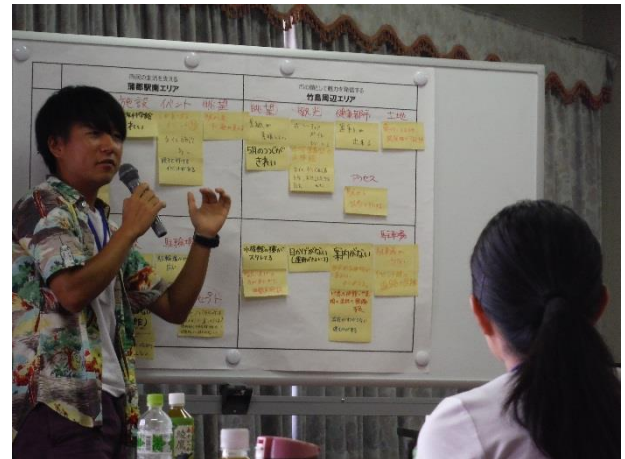
〈意見〉

(蒲郡駅南エリア)

- ・ 駅に近く便利だが電車で来ようと思う施設がない。
- ・ 勉強スペースや子どもの遊び場が少ない。
- ・ 民間の商業施設があり便利。

(竹島周辺エリア)

- ・ 水族館の横が廃れている。
- ・ お土産を買うスペースや休憩するスペースが無い。
- ・ 眺望を生かしきれていない。



第3回

日 時：8月22日（月）午後2時から午後4時30分まで

会 場：勤労福祉会館

出席者：11名（高校生2名、大学・大学院生6名、社会人3名）

内 容：

○ 「全市利用型施設」についてのワークショップ その2

前回の議論を発展させ、「まちの核」となる2つのエリアの「弱み」をどのように解決するか、「強み」をどのように伸ばすかを考えました。その上で、図書館、市民会館、博物館といった「全市利用型施設」の配置を含めたまちづくりのプランをグループ毎に検討し発表しました。

〈意 見〉

（蒲郡駅南エリア）

- ・ 市民生活に必要なものを凝縮したエリアとする。
- ・ 駅から近い便利な位置に図書館を設置する。
- ・ 博物館、市民会館、生命の海科学館を複合化し、学習から趣味の活動まで、幅広い活動ができる施設とする。

（竹島周辺エリア）

- ・ 蒲郡を代表する観光地として位置づける。
- ・ カフェ、レストラン、バー、特産品を購入できる施設を設置する。
- ・ それぞれ施設が単体で努力しているが一体となっていない。つなげることが重要。
- ・ 水族館から竹島までのルートを美しさを感じられるようにする。



第4回

日 時：9月3日（土）午後2時から午後4時30分まで

会 場：蒲郡公民館

出席者：10名（高校生3名、大学・大学院生5名、社会人2名）

内 容：

○ 「地区利用型施設」についてのワークショップ

テーマ：社会の変化に対応した新たなまちの姿を考える

小中学校、公民館、保育園、児童館といった「地区利用型施設」について検討しました。

はじめに、「人口が減り、人口の構成が変わって行く中での小中学校のあり方」というテーマで意見を出し合いました。

その後、将来の社会の変化に地域はどのように対応していけばよいかを、西浦地区（15名の参加者の内最も多い5名が居住）を題材にして考えました。

〈意 見〉

（人口減少・少子高齢化を見据えた将来の学校について）

- ・学校を地域の拠点にし、多世代が集まれる場所にする。
- ・学校で子育てができるようにする。
- ・地域の住民が利用することにより監視の目が届き安全性を確保できる。

（西浦地区を題材としたプラン検討）

- ・児童館・公民館を学校に集約する。勉強スペース、創作スペース、ギャラリーを空き教室を活用して整備する。
- ・多世代交流の場をつくる。高齢者が子どもを孫のように育ててくれる場とする。
- ・地域の自然や産業などの特徴を生かした学校をつくる。
- ・暮らす人にとって必要なものは何かを考え、複合化・多機能化していく必要がある。



第5回

日 時：9月17日（土）午後2時から午後4時30分まで

会 場：市役所

出席者：10名（高校生2名、大学・大学院生7名、社会人1名）

内 容：

○ 意見発表「公共施設で実現する魅力ある蒲郡」

参加者全員が、これまでの議論を踏まえて、「公共施設についてこれだけは実現したいこと」というテーマで発表しました。

また、「実現するために、自分が何かできることがあるか」、「若者まちづくりミーティングに参加した感想」もあわせて発表していただきました。

〈意 見〉

- ・似たようなサービスの施設が複数存在するのは非効率なので、施設を統合してサービスを維持・向上させてほしい。
- ・交通利便性の高い蒲郡駅周辺に、市民会館、博物館、図書館といった全市利用型施設を集約し、魅力を高め市の内外から人を呼び込む。
- ・教員数と児童生徒数のバランスの問題を解消するため、また、将来の負担を軽減するために、小中学校の数を少なくしてほしい。
- ・他の参加者のクリエイティブな話を聞くことができた。蒲郡市を良くするためのアイデアを色々と考えながら暮らしたいと感じた。

○ まちづくりの方向性についての検討

これまでのワークショップで話し合ってきた内容について、「市民生活の充実」、「活力・にぎわいの向上」、「地域で助け合い、子どもを育てる拠点の形成」、「住民参画によるまちづくり」という4つのテーマに分けて再度話し合い、将来のまちづくりの方向性を検討しました。



若者の意見によるまちづくりの方向性

■「全市利用型施設」の機能の配置と複合化

- ・図書館、市民会館、生命の海科学館、博物館、市役所等にある「学ぶ」、「趣味の活動をする」、「発表・展示をする、見る」、「会議や集会をする」、「図書やメディアにふれる」、「休憩」、「行政手続き」等の機能を蒲郡駅南エリア等の交通便利性の高い位置に集約し、幅広い活動ができる複合施設を設置する。

■会議室機能の集約

- ・市民会館、生命の海科学館、勤労福祉会館、生きがいセンター等にある「会議や集会をする」機能を再編し、利便性の高い位置に集約する。

■博物館の展示機能の配置の見直し

- ・博物館の展示機能をより市民が触れやすい場所に配置し、展示内容を定期的に入れ替えるなど企画の工夫をすることで、何度も訪れたいと思われるようにする。

■保健・福祉施設の配置と機能集約

- ・保健・福祉施設は、それぞれが持つ機能を、利用者にとっての利便性に主眼に置いて再配置する。機能同士の連携による利便性の向上や駐車場不足の解消を図る。

■地区の特色を生かす

- ・自然や産業などそれぞれの地区の特色を生かした公共施設をつくる。

■市民の健康づくり

- ・景観の良い場所や自然の豊かな地区ではウォーキングやサイクリングなど市民が日常的な運動を行い健康づくりができる環境を整える。

■「竹島周辺エリア」の魅力向上

- ・竹島周辺エリアを蒲郡を代表する観光地として位置づけ、文化や歴史の発信拠点としてランドマークとなる施設をつくるなど集中的に整備を進める。
- ・訪れる観光客に長時間滞在してもらえよう施設の整備を行う。（例：休憩スペース、蒲郡の特産品を購入したり味わったりする施設、カフェ、バー、歴史・文化の発信拠点）
- ・エリア内の施設間を蒲郡の特徴を表現する美しいデザインのルートで結んだり、一体的な情報発信を行うなど、単体の施設のみでなく、エリア全体で蒲郡の魅力を表現する。また、蒲郡駅から竹島周辺エリアまでの道を整備し、市外からアクセスしやすくする。
- ・観光客と市民の双方が訪れるにぎわいのあるエリアとする。

■地域で助け合い、子どもを育てる

- ・社会の変化に合わせて、地域で高齢者を見守り、子どもを育てる環境を整える。
- ・学校を中心とした地域の拠点をつくり、子育て、高齢者のレクリエーション、文化活動、集会、スポーツなど地域の方々の様々な活動の場とするとともに世代間交流の場とする。
- ・高齢者の居場所や地域サークルの活動場所などとして、バスの沿線上など利便性の高い位置にある空き家や空き店舗の活用を推進する。
- ・児童クラブの小学校内への配置を進め、子どもの安全を確保する。
- ・交通事情など地区の実情に配慮した上で小中一貫化を進める。また、学校を集約することより教育の充実を図る。
- ・必要であれば学区を見直したり、学区を選択できるようにする。
- ・地域の拠点を災害時の避難場所として利用することにより地域の防災力を高める。

■将来負担の軽減

- ・複合化・多機能化や運営の効率化を進め、維持にかかるコストを縮減することで将来の負担を抑える。